

学会記事

2006年度 第12回理事会 議事録

2007年5月21日

日本地質学会 会長 木村 学

期日：2007年5月12日（土）

12：00～17：00

場所：地質学会事務局

出席者：木村会長、伊藤副会長、渡部常務理事・上砂（遅刻14時半）・狩野・公文・高橋・久田・宮下・向山 各理事、オブザーバ：矢島、齋藤、橋辺（事務局）
欠席理事：佃副会長、天野副常務理事・Wallis・大友・倉本・中山・増田

* 成立員数（12/17）に対し、出席者10名、委任状5名、欠席者2名で、理事会は成立。

○報告

1. 運営財政部会（部会長-上砂，中山，向山，大友）

総務委員会（委員長-上砂）

庶務関係（担当理事-上砂）

・監事選出，委嘱について：2名のうち、今年度の選出の1名を外部の専門家に委嘱（選挙細則第4条2項）。前年度に引き続き下記の山本氏に委嘱することとした。評議員会には、メール報告をした任期 2007年度～2008年度 司法書士山本正司氏（山本司法書士事務所）
・第21回太平洋学術会議への出席要請→会長不都合につき、佃副会長出席

・日本の地質百選選定委員会，全地連，GUPIの，百選選定案について意見聴取があり，評議員から寄せられた意見を取りまとめた。

・全地連より，JIS制定における土地地質図の規格名称アンケートの結果について，「工学地質図」と決定したことが報告された。

・JST新規事業「理科支援員等配置事業」についての協力要請があった。・環境省より，環境の日（6月5日），環境週間（6月5日から1週間），環境月間（6月）についての周知および関連行事の開催の依頼。

・日本学術振興会賞受賞候補者の推薦依頼（受付6月4日～6日）→HPに掲載

・（財）深田地質研究所の理事長は，4月より佐藤正氏から田中荘一氏に交代した。

・石灰石鉱業協会役員の交代，新会長 松本六朗氏（日鉄鉱業）。

・日本科学技術振興財団専務理事の交代，新専務理事 坪井健司氏。

・平成18年度土木の日記念行事記事の抜き

刷り配布・岩手大学教員募集，News誌掲載。

<他団体の後援など>

・学術会議地球惑星科学委員会IGU分科会，2014年IGU地域会議招致委員会（委員長岡部篤行）より，IGU国際地理学連合地域会議（2014年）の京都招致について，地理関連学連合加盟の学会に対し，協力依頼があった。具体的な協力内容については今後の検討してゆくこととなる。

・第4回 Gondwana からアジア国際シンポジウム（小山内康人，11月8～10日，九州大学）の後援依頼があり，承諾した。

・群馬県立自然史博物館より，第27回企画展「アイスエイジ氷河時代を生きた動物たち」の後援依頼があり，承諾した。

・触媒学会より，触媒道場（8月6日～8日，倉敷市）の協賛依頼があり，本会以外の協賛団体等も確認して承諾した。

・ゼオライト学会より，「第15回ゼオライト夏の学校」（9月6日～8日，東北大学川渡共同セミナーセンター）の協賛依頼，ならびに「第23回ゼオライト研究発表会」（11月7日～8日）の共催を例年どおり承諾した。

・日本工業新聞社より，2007年地球環境保護土壌・地下水浄化技術展の協賛依頼があり，例年どおり承諾した。

・日本科学技術振興財団より，「青少年のための科学の祭典2007」の後援依頼があり，例年どおり承諾する。

会員関係（担当理事-中山）

1) 入会の承認

正会員（6名）：高橋 良 井上貞行 小泉治彦 中村早希 本田尚正 惣塚潤一
院生割引会員（15名）：佐藤友彦 齋藤誠史 須田宏美 藤本悠太 曾根正敏 糟屋晃久 角出 覚 本田豊也 菅原拓矢 半谷徳章 野本哲也 金井篤史 曾山祐貴 伊藤拓馬 ユーシフ オフマン モハメッド

準会員（2名）：小島佑季彦 尾林 充

2) 退会者（正5名）宮副智之 清水 瞳 棚橋道郎 松岡 淳 亀井 陽

3) 逝去者（2名）吾妻 穰会員（1月5日）杉山隆二名誉会員（5月3日）

4) 4月末現在会員数
賛助34，名誉74，正4320（内，院割163），学生25，合計4453名（昨年比-78）

関連学会連合（担当理事-天野）

・地質科学関連学協会連合

地質の日実行委員会委員として，藤本光一郎氏を推薦した。

地球惑星科学連合（久田連絡委員）

・地惑連合：国際地学オリンピック小委員会（久田委員）報告

2007韓国でのスケジュール紹介，筆記と実技試験内容，地・気・天・水の各圏の割合（4：3：2：1）など，地質分野の重みは大きい，日本は今年からの参加も検討したが予算措置上視察のみとした学術会議関係報告（木村会長＝連携会員）ICCP報告が出て，地球温暖化対策G8に向けて地球環境関連の科学の推進を連合が進めたい。地質学会としてもこれを担うべき。

会計関係（担当理事-向山）

・06年度会計監査報告

5月9日に無事終了し総会に報告予定。決算までのスケジュールとしてはあと2週間余裕が欲しい（年度末から2ヶ月）

・07年度予算最終案
事業費の中の管理費と一般管理費の区分整理を実施

・会費収入と会員数からみた今後の予測
シニア会費導入シミュレーション結果，永年会員まとめ払い等の効果を議論，継続検討。

広報委員会（担当理事-大友）

・札幌大会HPについては，top pageからリンクされているが，まだ内容ができていない。

・札幌大会のプレスリリースについて日本地質学会からのプレスリリース（2007年8月30日（木）9：00）をnews誌年會予告で告知する。個人でプレスリリースを行う場合も，2007年8月30日（木）9：00以降に行うように告知。

ニュース誌編集小委員会（担当理事-大友）
インターネット運営小委員会（委員長-坂口有人）

・現行HP中に，HP原稿のweb投稿画面を作成し，原稿の受付を開始した。

・レンタルサーバー業者について情報を集めて模索中。共用サーバーは安く魅力的であるが各社ともMLの数に制限があるのが難点（たとえば，あるレンタルサーバーは容量が20GBあり，サーバ操作の自由度も高いのですがメーリングリストは最大10個まで。現在地質学会のMLは19個）。MLの数が無制限な専用か仮想専用サーバーを再検討する必要がある。

・HPのtop pageにホームページへの原稿投稿ページを設置した。

・会員の自己登録型のデータベース”地質学会会員が公表したInternational Journal論文”のページを木村会長が提

案され、作る方向で議論が進んでいる。掲載者・利用者ともに利益を得られるようなシステムの構築が必要。

2. 学術研究部会（部会長-久田，公文，増田）

行事委員会（久田委員長）

1) 札幌大会関連

- ・就職活動支援プログラム案
 - ・全地連，産総研，地質学会の共同による札幌駅西口コンコース展示貸切の件（7-9日）
 - ・予告記事5月号掲載
 - ・大会参加登録・講演申込みシステムとも，予告記事発行までに（5/22以降大会HPの準備が整い次第）公開の見込み。
- ### 2) 秋田大会の詳細は暫時報告予定。岩鉾との併催については連合大会中に報告予定とのこと。

国際交流委員会（公文 国際特任理事）

韓国地質学会とのMOU，招聘等の対応は次回理事会から国際特任担当があたることとした

3. 編集出版部会（部会長-狩野，久田，宮下，Wallis）

地質学雑誌編集委員会（委員長-狩野 副委員長-久田，宮下=企画担当）

1) 今月の編集状況は以下の通りです（5月11日現在）。

113-4：論説3（40p発行済み）

113-5：論説4（約50p）・口絵1（校正中）

113-6：（入稿準備中）2007年度投稿論文総数30編〔論説16（和文16），総説7（和文7），

短報6（和文5 欧文1），ノート1（和文1）〕口絵4（和文2 欧文5）

※うち20件が電子投稿

投稿数昨年比 -15 査読中41編 受理済み 10編（論説6・短報3・口絵1特集号は除く）

2) 「地質学雑誌投稿の手引き」に下記2点を加えることとした（案文）。

◎地質時代の細分表記について

ある地質時代を前期，中期，後期などに細分する場合，それを時代の前に置くか，後に置くかについての正式な取り決めはないようです。例えば，産業技術総合研究所が発刊する地質図幅類においても，必ずしも統一されておりません。そこで地質学雑誌では雑誌内での表記不統一を避けるために，以下のような表記法を推奨いたします。この表記法は，日本工業規格「JIS A 0204 地質図記号，色，模様，用語及び凡例表示」にある取り決めをふまえたものです。

地質時代を細分又は修飾する公式の形容詞句（英単語では先頭大文字）は，地質時代名の直前に置いて，“形容詞句+

地質時代名”の形式で記述して下さい。例：後期白亜紀（Late Cretaceous），中期中新世（Middle Miocene），先白亜紀（Pre-Cretaceous）

地質時代を正確に決めたい場合，あるいは単にある時代の一部をさす場合の形容詞句（英単語では小文字）は，地質時代の直後に置いてください。

例：中新世（の）後期（late Miocene），中期中新世（の）後期（late Middle Miocene）年代層序单元（界，系，統，階）を細分する場合にも，上記の時代区分の表記法に準じて下さい。

◎重要地点の緯度・経度表示

電子地図とGPSの普及により，緯度・経度データを用いて簡単に地点を特定できるようになりました。特に地質学雑誌の補遺となった見学旅行案内書では，緯度・経度表記は重要になると思われる。そこで，模式地，重要露頭などについては，世界測地系による緯度・経度を，以下の例を参考に本文中に記して下さい。

糸魚川-静岡構造線新倉露頭（35°29'27"N，138°19'34"E）秒以下の単位まで記すかどうかは，露頭の規模等により判断願います。

緯度経度の表記を世界座標系に指定するならば，論文中でも位置情報は統一するべきである。

3) 地質学雑誌の継続的出版に向けて

雑誌原稿確保の観点からではなく，潜在的な掲載誌面の要望に対応するという立場で，大学紀要の廃止への対応を提案。貴重な卒論・修論等のデータ公表の場を，データレポート等の新たなカテゴリーで地質学雑誌に受け入れる可能性を検討する。編集規約や投稿規定の変更，投稿要望の調査結果等を次回理事会に報告いただき，継続審議することとした。

Island arc編集委員会（担当理事-Wallis，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）

1. 編集状況

2007年16巻の年間契約ページ数576（～最大620）p

1号 Pictorial 1編，特集6編，一般8編。

18年度では計画540pに対し537p。

2号 一般7編入稿済み，6月末発行。7編ともOnline Earlyで公開済み。

3号 5月末受理のフィリピン海特集7-8編が入る予定。入稿期限は6月末。手持ち一般受理原稿6編あり

年間計画 1号：一般8編127p+特集6編79p+口絵3p+白紙=210p

2号：一般7編104p+Editorial 3p+白紙=108p

3号：一般2編30p+フィリピン海特集9編135p=165p（特集減・一般増が濃厚）

4号：一般6編90p+Index等2p=92p 総計575p/契約576p

2. 特集

フィリピン海特集：Guest Editors小原・徳山・石渡・Stern

11編投稿済み，7-8編受理を見込む。3号掲載予定。

板谷特集：GE板谷・Sajeev・Wallis

全15編予定，3編投稿済み。17-1号掲載を見込む。

久田特集：GE久田・Yumul

全23編予定，3編投稿済み。17-4号・18-1号分割掲載を検討中。

3. オンライン投稿

07年4ヶ月で新規投稿29編（特集16編，一般13編）あり好調を維持。

システムへの登録：総数373名。著者199名+査読者105名+編集関係者69名（うちGuest Editor 7名）。

Island arc連絡調整委員会（委員長-会田，担当理事-Wallis）

・アイランドアーク科研費平成19年度の交付請求書他の書類を提出した。

企画出版委員会（担当理事-高橋）

GS Londonの出版企画を参考に進めていくという目標，特集や単行出版物について考え直して欲しい。普及出版企画を活発に進めるべき。

4. 普及教育事業部会（部会長-高橋，倉本） 地層名委員会（委員長-天野）

第四紀問題についてICSで投票が行われている（5月15日締め切り）が，現時点では，Quaternaryを「紀，系」として扱うという意見が大半である。これは，ICSのJim Ogg氏によりIUGSに報告される予定である（IUGS評議員松本良氏からの報告）。

5. その他

支部長連絡会議（担当理事-伊藤）

・地質の日，GEOPAR等への支部活動での支援，協力要請の打ち合せを，6月16日，23日のいずれかに行うことを予定。佃副会長と藤本新理事が説明へ。

JABEE委員会（委員長-福澤仁之）

委員会体制の見直しについての検討時期，委員長の交代を検討する。

技術者継続教育委員会（PDE）（委員長-公文）

Geo Screening Net分担金を2万円/年から本年度に限り10万円の当初設定に戻すように要請を受けたため，秋までに支払い予定。

ジオパーク推進委員会（担当理事，佃委員長）

推進委員会は発展的に解消する予定。今後の提案への支援窓口等は，普及教育部会担当理事があたることとした

【以下、評議員会の下の委員会】

名誉会員推薦委員会（伊藤副会長）
・推薦文確認

各賞選考委員会（委員長-酒井治孝）
・各賞の推薦文確認

法務委員会（担当理事：委員長-上砂）
・地質学会プライバシーポリシーの文書体裁修正提案の確認、直近の地質ニュース誌に掲載予定。

6. 4 役会議審議内容

- 1) 木村会長の連合議長就任、学会の今後の重要課題
学術会議の主要な議題について説明。来年G8の地球環境問題での地球科学のプレゼンス拡大、連合に地球環境問題特別委員会が発足予定。
- 2) 札幌大会の状況把握、秋田大会の進展について
- 3) IYPE：地質学会年会07～09年と関連行事をIYPEの活動とする。
- 4) a. 地質の日実行委員会は藤本次期理事が委員として担当、b. 支部での活動推進のために、伊藤副会長担当で支部長会議の招集予定 c. GEOPARKについての窓口は普及部会担当理事が行う方向で検討。
- 5) 地質学雑誌の原稿不足問題についての現状、長期的な方向性についての検討。
- 6) HP更新に向けて、メールマガジン実施の際の発信内容の承認は、広報部長、情報特任理事の承認案件とする。

○審議事項

1. 総会議案資料等の確認
2. 総会議長
前例に習い、小嶋さんに議長依頼、副議長候補者の選考に努めることとした
3. 07年度理事会、役割分担と引継ぎ、*印
部長
常務理事：渡部
副常務理事：天野
運営財政部会：上砂*、中山、向山、倉本（広報、ニュース誌：倉本）
学術研究部会：公文*、斎藤（行事：斎藤、国際：公文）
編集出版：狩野*、久田、宮下、Wallis
普及教育：矢島*、藤本（企画出版：藤本）

2007年度 第1回理事会 議事録

2007年6月20日
日本地質学会 会長 木村 学
期 日：2007年6月9日（土）
12：00～17：00

場 所：地質学会事務局

出席者：木村会長、佃副会長、渡部常務理事・天野副常務理事・Wallis・上砂・公文・倉本・斎藤、中山・久田・藤本、宮下・向山、矢島（遅刻）各理事、橋辺（事務局）
欠席理事（委任状）：伊藤副会長、狩野

* 成立員数（12/17）に対し、出席者15名、委任状2名で、理事会は成立。

○報告

1. 運営財政部会（部会長-上砂、中山、向山、倉本）
総務委員会（委員長-上砂）
・国際賞受賞者グリーン氏およびホワイト氏への、今後の連絡や受け皿については、新井田評議員が引き受けるとのこと。東京で何らかの行事等を予定されることがあるかどうか、招待の旅費等の支出について、どのように支給するか、これらについては旅行等の手配を始める前にきめてほしいとのこと。招待状推薦文については、翻訳を依頼し、翻訳文をWallis理事が確認のうえ発送する。
招待の旅費等については会計担当理事と協議の上支給の仕方を決めることとした。
- ・文科省より、平成20年度科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞および若手科学者賞受賞者の推薦について案内があった。学会推薦のみ受付可。締め切り7月13日→Webサイト、News誌で広報する。会員からノミネートしてもらったもの（締め切り7月2日）を、理事会のメールで審査する。
今年度については、条件を検討の上、柵山賞受賞者を、理事会から推薦する。来年度以降の推薦については、各賞委員会と連絡の上で、検討する。
- ・大学評価・学位授与機構から、国立大学教育研究評価委員会専門委員候補者の推薦依頼。平成20年度の中期目標期間における国立大学法人及び大学共同利用機関法人の教育研究状況の評価を担当。推薦締め切り6月15日。
評議員会に推薦を依頼しているので、評議員会からの推薦者に追加して、理事会としても候補者をあげ、本人の承諾を得て推薦をする。達成状況評価委員 6名、研究業績委員 5名の候補者を選んだ。
- ・国際地理オリンピック・アジア大会（台湾）に選手派遣のために、同日本委員会より関連学会に対し寄付の要請があった。依頼状の趣旨、用途が明確でないので、は寄付しないこととした。
- ・土木学会会長以下役員交代、新会長 石井弓夫
<他団体の後援など>
・「OCEANS '08 MTS/IEEE/KOBE-TECHNO-OCEAN '08」（08/4/8-11、隔

年に日本で開催）の協賛依頼が同会議委員会よりあり、前回通り承諾した。

会員関係（担当理事-中山）

- 1) 入会の承認
正会員（3名）：吉川武憲 清水連太郎 加藤清次
院生割引会員（8名）：岩谷北斗 澤田大毅 岡本泰子 シャルコフスキ アネストリア 千葉恵美 村上龍太郎 奥村知世 山下翔大
準会員（2名）：高仁 環 曾野部敬子
2) 退会者（正3名）タウン タイ 白井亮久 梅原綾乃
3) 5月末現在会員数
賛助34、名誉75、正4329（内、院割176）、学生27、合計4465名（昨年比-62）
4) 会員名簿：6月中旬に印刷所に見積もり依頼。6月下旬～7月一杯に編集作業。
5) 新会員システムについて
全会員データの基本情報まで格納済み、現在は、実際に運用するシステムを調整中。

関連学会連合（担当理事-天野）

- ・地球惑星科学連合（久田連絡委員）
- 1) 連合評議会において、木村会長は連合議長に就任。
- 2) プログラム委員会七山委員から報告
- 3) 08年度の大会開催予定 5月25日（日）-30日（金）
- 4) 08年度プログラム委員長 渡辺真人（地質学会）
- 5) 地惑連合：国際地学オリンピック小委員会（久田委員）報告
JSTからオブザーバー参加のための予算が付いた。

学術会議関係報告（木村会長=連携会員）

- ・課題別委員会：地球温暖化対応委員会を作る動きあり。ポストIPCCに対応する。
- ・サイエンスの側からのメッセージをG8に関連して提出する。
- ・地球科学関係コミュニティからの情報発信をめざす。

会計関係（担当理事-向山）

- 広報委員会（担当理事-倉本）
- ・学会表彰を授与する、写真家北中康文氏について、山と溪谷社がプレスリリースを行うとのことから、学会としても6月4日に文科省の記者クラブにリリースをおこなった。
- ・メルマガ開始の準備中、第一回配信を7月3日におこなうこととした。
- 以後、第1、第3火曜日に定期配信をおこなうこととする。
- ・メルマガの名称を、「Geo flash」とした。
*その後他所で使用中の名称とわかり「geo-Flash」とすることとした。